

# 2023年度 入学試験 学特入試Ⅱ・一般

## 国 語

※問題は1ページから13ページまであります。

※マークシートに、受験番号・氏名・性別・科目を正しく記入してください。

※解答は、すべてマークシートに記入してください。

※書き誤りをしたときは、きれいに消してから、新しい解答を書いてください。

学 特 入 試 Ⅱ 般	受 験 番 号		氏  名	
----------------------------	------------------	--	------------	--

高崎健康福祉大学高崎高等学校



□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

石や金属の刃物があれば、動物のように、獲物に直接噛みついて肉や骨を噛み砕くための丈夫な牙や歯を持つ必要はありませんし、何らかの動物を殺して、その皮で体を覆うことができれば、一般の動物がするよ<sup>う</sup>に長い毛を体に生やすことで、寒さを防がなくともよくなります。さらに言語を使うことなども、人間を他の生物とは異なつた特殊な生物にしている重要な文化の要素です。

なかでも言語は道具や衣服と違って、触ったり目に見えたりするものではありませんが、環境からの刺激や情報を人間が感知した結果を処理し、そのことを仲間に伝えることで、肉体的には強<sup>きやうじん</sup>靱さを欠く人間が、集団的に協力して様々な環境にうまく対処することに役立っています。この文化にはさらに各民族集団に特<sup>A</sup>ユウの風俗習慣、儀礼や宗教など様々なものが含まれますが、これらが生物としての人間を言わばすつぽりと包んで覆い、自然環境との間にあって環境の直接の影響から人間を守っていると考えるのです。したがって言語や風俗習慣、そして宗教までもが、住む場所の環境によって違わざるを得ないのです。

この文化という中間地帯（あるいは領域 domain<sup>と</sup>言ってもよいと思えますが）は視点を変えると、人間と自然環境との間に介在して、環境の影響を人間が直接まともに受けないようにするための、言わば外界からの衝撃を緩衝<sup>かんしやう</sup>したり吸収したりする一種の装置（ショック・アブソーバー）の役目を果たしていると考えられます。そしてこの装

置のおかげで、全生物の中で人間という生物一種だけが、自分自身の体の性質や形をそれほど変えずに、地球上のあらゆる異なつた自然環境、たとえばすべてが凍<sup>い</sup>てつく極北の地から炎熱<sup>B</sup>コク暑<sup>し</sup>の熱帯まで、さらには極度に乾燥した草木のほとんどない砂漠地帯から、すべてが正反対の熱帯雨林にまで分<sup>C</sup>ブを<sup>し</sup>広げながら、それでも種としての同一性を失うほどの性質や形状の変化を示さずに済んでいるのです。

先に述べたように、人間以外の一般の生物は、環境が変化すればそれに適応するために、自分の体を新しい環境に合わせて変えることで、生き残りを図ります。（水は方円の器に従う）と言われるように、水は注ぎ入れられた容器の形を素早く自分の形としますが、これと同じように一般の生物はまさに新しい環境に出会うと、それにピタッと合うように自分の体や性質を変えることで、生き残りを図るのです。これに対し人間だけは自分を変えずに、（自分を<sup>い</sup>取り巻く文化）を新しい環境に合うように変化させることで対応します。その結果として地球上の様々な異なる環境の下に、人間は自分自身の体や性質をあまり変えることなく、結果としてどこでも同じ人間として生き残ってきたのです。

このように生態学的に文化をとらえる考えは今まで<sup>D</sup>テイ出されたことのない、文化がもつ人間にとっての働きの新しい解釈ですから、もう少し詳しく説明しましょう。

たとえば自動車の車輪は、一般には空気を詰めたゴムのチューブが中に収められている弾力のあるタイヤが、路面の凹凸<sup>おうとつ</sup>などから受ける衝撃をうまく吸収して、車に乗っている人の体に衝撃がもろに伝わらないように作られた装置です。そして更にこの車輪そのものまでが、さらに強

力な板バネ（またはコイル・スプリング）やダンパーと呼ばれる、油圧を利用した衝撃吸収装置との組み合わせを介して、車体に取り付けられているので、道路条件がいろいろと変化しても、車内の人は常に快適な状態を保つことが出来るのです。

これと同じような仕組みを持つ特殊な装置を、人間は体の周りに張り巡らしているのだと考えてください。このような、自然環境からの様々な刺激や衝撃を和らげたり吸収したりして、それを人間の体に直接に伝えず吸収してくれる一種の衝撃吸収・緩衝装置に包まれ守られているからこそ、人間は他の動植物とは違って、大きく異なった環境条件の下に広がって住むようになって、それぞれが人間として元々持っている、生物の種としての同一性を失うことがないのです。

その代わり、このような役目を担うことになった『文化』は、人間が異なる自然環境に住むようになれば、それに対応して人間を変化から守るために、それ自体が常に変化変容せざるを得なくなります。そして文化の主要な部分を占める言語も、当然自然環境の違いを受け止め処理すべく変ボウします。ですから人間の言語のもつ驚くほどの多様性とは、住居や衣服の違いや風俗習慣、そして宗教の違い、また食べ物の種類や調理法の違いなどと組み合わさって、人間が地球上の、環境条件を甚だしく異にするどんな場所に住んでも、ほぼ同じ人間であり続けることを担保する重要な役割を果すものなのです。

ただし人間の言語が持つ様々な音声や文法の違いを、直ちに人々の住む環境や風土条件の違いに結びつけて、明快に説明することは現段階では残念ながらできません。しかし用いられる語彙の種類や性質に限れば、これらの違いは人々の住む環境と密接に関係し、その違いを反映してい

ることはよく知られている事実です。

たとえば北極圏で雪と氷に一年中囲まれて生活している狩猟民族の使う言語には、それぞれ違った性質や特徴を持っている氷や雪の、部外者の目には僅かな違いとしか映らない性質の相違が人々の暮らしの安全や必要に大きく関わっているため、このような細かな違いは非常に多くの短い独立語で正確に言い分けられています。

ところが日本では冬だけ寒く時々雪が降るような場所でも、雪や氷についての独立語は、氷、つらら、雪、みぞれなどに限られていて、さらに細かい違いを表現したいときは、粉雪、綿雪などの複合語を用いたり、べとべとした雪とか、さらさらした雪といったように説明したりします。このような言い方で用が足りるということは、たくさんの短い独立語ですべてが区別できる言語の場合に比べて、雪が持つ暮らしにおける切実さが少ないと言えるのです。

ですから文化人類学者は、ある言語の語彙のすべてを概観すれば、その言語を用いている人々がどのような風土条件のもとで、何をどのような食べ、家畜にどの程度イ存して暮しているかといったようなことを、大雑把ではありますが、頭に描くことができます。このことが、言語は「ある人々の暮らしの概略を示す見取り図である」などと言われたりする理由です。

（鈴木孝夫「日本の感性が世界を変える 言語生態学的文明論」による）

(1) 二重傍線部A～Fのカタカナと同じ漢字があてはまるものを、次の①～④の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

A 特ユウ

1

- ① ユウ刊
- ② ユウ勝
- ③ ユウ望
- ④ ユウ気

B コク暑

2

- ① コク似
- ② コク雲
- ③ コク別
- ④ 時コク

C 分プ

3

- ① 人プ
- ② 妊プ
- ③ 財フ
- ④ 系フ

D テイ出

4

- ① テイ案
- ② テイ空
- ③ テイ番
- ④ テイ止

E 変ボウ

5

- ① 減ボウ
- ② 容ボウ
- ③ 脂ボウ
- ④ 策ボウ

F イ存

6

- ① イ装
- ② イ抛
- ③ イ階
- ④ イ圧

(2) 傍線部ア「言語」とありますが、筆者はその働きと結果についてどのように述べていますか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

7

- ① 言語は目に見えない人間の能力を向上させる機能を持っていて、そのおかげで人間は高度な文化を築くことができた。
- ② 言語は環境からの刺激や情報を他者に伝える機能を持っており、それによって人間は集団で生き続けることができた。
- ③ 言語はある民族の生活全体に大きな影響を及ぼす機能を持っており、言語によって風俗習慣が規定されると言える。
- ④ 言語の持つ、環境が身体に与える影響を防ぐ機能が、弱い肉体を持つ人間を環境の制約から解放している。

(3) 傍線部イ「人間は自分自身の体や性質をあまり変えることなく、結果としてどこでも同じ人間として生き残ってきたのです」とありますが、その理由を筆者が説明したものとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

8

- ① 人間は周囲の環境が厳しいものになった場合、その環境にふさわしい生活様式を容易に見出す能力を持っているから。
- ② 人間は生存が困難な環境下におかれても、言語という文化の力によってその環境を変質させることができるから。
- ③ 人間は周囲の環境が変化した場合、自分の身体を変えるのではなく、自分を取り巻く文化を変容させることができるから。
- ④ たとえ環境が大きく変化しても、人間はそれに合った新しい言語を作り出すことで、周囲の環境への理解を深められるから。

(4) 傍線部ウ「一種の衝撃吸収・緩衝装置に包まれ守られている」の例として適当でないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

9

- ① 生のまま食べると体に害がある食材でも、適切に調理して味付けをするとおいしく食べられる。
- ② 台風が多い沖縄県では、丈夫な石垣と漆喰しゅくで固定された屋根瓦を用いた住宅がみられる。
- ③ 私の父は生まれつき頑丈なので、暑さや寒さが厳しい季節でも日課のランニングを欠かさない。
- ④ 寒冷な地域の国では、狩猟した動物の毛皮を用いて作った保温性のある衣服が特徴的だ。

(5) 傍線部工「人間の言語のもつ驚くほどの多様性」とありますが、言語が多様性をもつ理由を筆者が説明したものとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

10

- ① 人間が暮らす環境は多様性に富んでおり、言語はその多様性に適応していないと用いることができないから。
- ② 人間は言語によってその文化を育んできたのであり、人間の文化は長い歴史を経てたびたび急激に変容してきたから。
- ③ 人間は様々に異なる文化や風俗を持っており、その風俗習慣の違いに合わせて人間のあり方を変えていかねばならないから。
- ④ 人間が住む地球の環境は常に変化し続けており、同じ言語を使っている環境をよく制御することができないから。

(6) 傍線部オ「部外者の目には僅かな違いとしか映らない性質の相違」とありますが、これに近い様子を表した言葉として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

- ① 同工異曲
- ② 針小棒大
- ③ 千差万別
- ④ 大同小異

(7) 傍線部力「このような言い方で用が足りる」とありますが、それはどのようなことを表していますか。その説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

12

- ① 日本の冬は北極圏の冬ほど厳しくはないので、四季に代表されるような自然の美しさを形容する言葉が重視されてきたこと。
- ② 日本の冬は北極圏における冬の生活とは違い、氷や雪に関して北極圏ほど厳密な違いを意識する必要がないということ。
- ③ 日本の冬は北極圏の冬とは違って、細かな氷や雪が多く見られ、それらを表す言語を特に大切にしてきたということ。
- ④ 日本の冬は北極圏の冬とは違った理由で人々に大きな影響を与え、短い言語で環境を表現することが求められたということ。

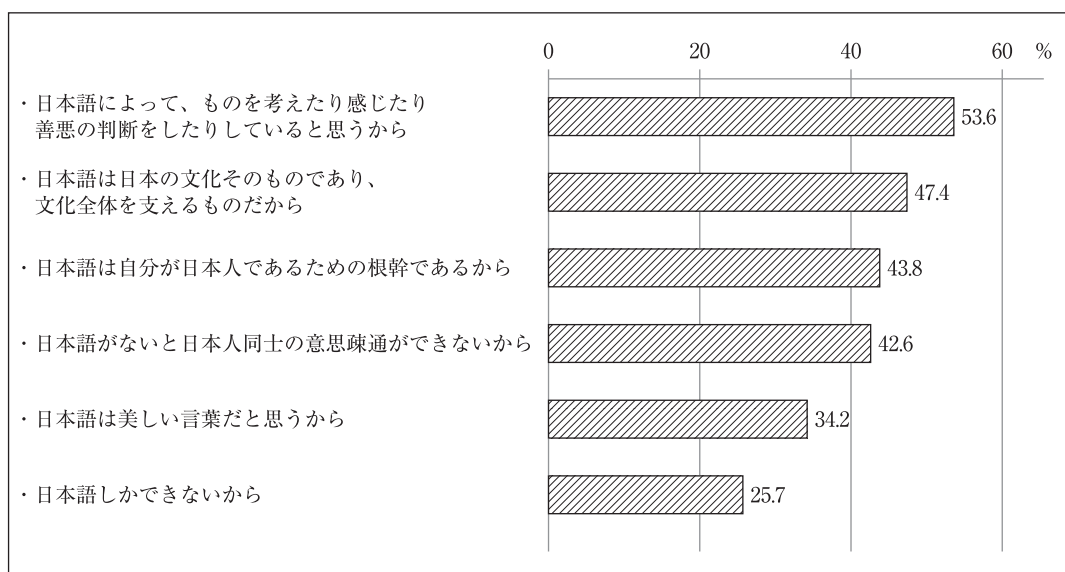
(8) あとの資料は、「日本語を大切にしていると思う理由」についての調査結果である。本文とこの資料から読み取ることが出来る内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

13

- ① 「言語を使うことなども、人間を他の生物とは異なった特殊な生物にしている重要な文化の要素です」と本文にあるように、日本語は日本の文化そのものであると考えている人が五割以上もいることがわかる。
- ② 「人間だけは自分を変えずに、〈自分を取り巻く文化〉を新しい環境に合うように変化させることで対応します」と本文にあるように、他の言語ではなく日本語を用いて生活をしている人が五割を超えていることが読み取れる。
- ③ 「用いられる語彙の種類や性質に限れば、これらの違いは人々の住む環境と密接に関係し、その違いを反映している」と本文にあるように、日本語を地方に根付いた美しいものだと感じる人が四割にのぼっている。
- ④ 「言語は『ある人々の暮らしの概略を示す見取り図である』」と本文にあるように、日本語は自分たちの文化を支えるものだと感じている人が五割近くいることがわかる。



〔資料〕「日本語を大切にしていると思う理由」



〔文化庁「令和二年度 国語に関する世論調査」より〕

(9) 本文の内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

① 筆者は人間の文化のうち特に言語がどのような働きをするかについて説明しており、言語は人間が住む地域と密接に関係し、人間が文化的に生存するのに役立っていると述べている。

② 筆者は人間と動物を比較しながら人間の文化の意味について説明しており、言語は人間にとって、動物が持つ牙や歯と同じく、社会の平和を守る上で極めて重要なものと述べている。

③ 筆者は人間の暮らす地域の特性を反映する、道具としての言語について説明しており、風土条件の研究にあたってはその地域の言語への理解が欠かせないということを述べている。

④ 筆者は人間が環境と戦う一つの道具としての言語について説明しており、ある言語の語彙を研究することによって、その国の文化的水準や生活様式について理解できると述べている。

二 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

寺をよく訪れる獵師の男は、寺の聖（僧）から、夜になると仏が現れるので一緒に拝もうと言われた。獵師が待っていると本当に仏が現れた。聖や寺の童（子ども）はともに拜んでいたが、獵師はそのうちにあることを思った。

獵師思ふやう、聖は年比經をもたもち読み給へばこそ、その目ばかりに見え給はめ、この童、我が身などは、經の向きたる方も知らぬに、見え給へるは、心は得られぬ事なりと、心のうちに思ひて、この事試みてん。これ罪得べき事にあらずと思ひて、尖矢を弓につがひて、聖の拝み入りたる上よりさし越して、弓を強く引きて、ひやうと射たりければ、御胸の程に当るやうにて、火を打ち消つごとくにて、光も失せぬ。へとどろめきて、逃げ行く音す。聖、「これはいかにし給へるぞ」といひて、泣き惑ふ事限なし。男申しけるは、聖の目にこそ見え給はめ、我が罪深き者の目に見え給へば、試み奉らんと思ひて、射つるなり。実の仏ならば、よも矢は立ち給はじ。されば怪しき物なりといひけり。夜明けて、血をとめて行きて見ければ、一町ばかり行きて、谷の底に大なる狸、胸より尖矢を射通されて、死して伏せりけり。

〔宇治拾遺物語〕による

（注） \*年比＝長年の間。

\*心は得られぬ事なり＝納得できないことだ。

\*尖矢＝先が鋭く尖っている矢。

\*一町＝約百九メートル。

(1) 本文中の二重傍線部①～④の中から、動作の主体が他の三つと異なるものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 15

- ① 見え                      ② 思ひ  
③ 試み                      ④ つがひ

(2) 傍線部ア「射たりければ」とありますが、獵師がそのようにした理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。 16

- ① 現れたものが本当に仏かどうか確かめなかったから。  
② 仏の正体が人間に害を及ぼす動物だとわかったから。  
③ 現れた仏は經を教えようとしてくれなかったから。  
④ 仏の胸の上に何か光るものがあるのを見たから。

(3) 本文中の□に入る語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。 17

- ① 寺                          ② 谷  
③ 火                          ④ 町

(4) 傍線部イ「これはいかにし給へるぞ」の現代語訳として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

18

- ① これはいつごろなされたことですか
- ② これは誰がなされたのですか
- ③ これはどうなされたのでしょうか
- ④ これはいくらになることでしょうか

(5) 傍線部ウ「男申しけるは」とありますが、猟師が言った内容が書かれているのは、本文中のどこからどこまでですか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

19

- ① 聖の目にこそゝ試み奉らん
- ② 聖の目にこそゝ射つるなり
- ③ 聖の目にこそゝ立ち給はじ
- ④ 聖の目にこそゝ怪しき物なり

(6) 傍線部エ「実の仏ならば、よも矢は立ち給はじ」とありますが、このときの猟師の様子の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

20

- ① ひどく愚かなことをしてしまったと気づき、悔やむ様子。
- ② 自分の行動に自信をもっているため、堂々としている様子。
- ③ 自分のしたことをごまかそうと、知らないふりをする様子。
- ④ 自分たちをだまそうとしたことがわかり、怒っている様子。

(7) 本文の内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

21

- ① 猟師が矢を放ったところ、仏のふりをしていた狸に当たり、狸は離れたところで死んでいるのが見つかった。
- ② 聖は猟師が矢を放とうとするのを見て驚き、仏の姿になっていた狸に逃げよう言ったが、手遅れだった。
- ③ 猟師と聖は怪しい姿をした仏に疑いを感じ、本当に仏かどうかを確かめるために矢を放つことにした。
- ④ 寺を訪れた猟師は仏が来たと聞いたが、猟師が見たところまったく仏には見えず、ひと目で狸だとわかった。

(8) 本作品（「宇治拾遺物語」）は鎌倉時代に成立した説話集です。この

作品と同じく鎌倉時代に成立した作品として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

22

- ① 『方丈記』
- ② 『源氏物語』
- ③ 『おくのほそ道』
- ④ 『枕草子』

③ 次の漢文を読んで、後の問いに答えなさい。

聴<sup>レ</sup>政<sup>ヲ</sup>之<sup>ノ</sup>大<sup>ニ</sup>分<sup>ス</sup>、以<sup>テ</sup>善<sup>ヲ</sup>

至<sup>ル</sup>者<sup>ハ</sup>待<sup>テ</sup>之<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>礼<sup>ヲ</sup>、以<sup>テ</sup>不

善<sup>一</sup>至<sup>ル</sup>者<sup>ハ</sup>待<sup>テ</sup>之<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>刑<sup>ヲ</sup>。② 両

者<sup>ハ</sup>分<sup>ク</sup>別<sup>ス</sup>、則<sup>チ</sup>賢<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>肖<sup>ス</sup>。③ 不<sup>レ</sup>肖<sup>ス</sup>不<sup>レ</sup>肖<sup>ス</sup>

雑<sup>シ</sup>、是<sup>レ</sup>非<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>乱<sup>ス</sup>。④ 賢<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>肖<sup>ス</sup>

不<sup>レ</sup>雑<sup>シ</sup>、則<sup>チ</sup>英<sup>ニ</sup>傑<sup>ト</sup>至<sup>リ</sup>、是<sup>レ</sup>非

不<sup>レ</sup>乱<sup>ス</sup>、則<sup>チ</sup>国<sup>ヲ</sup>家<sup>ヲ</sup>治<sup>ム</sup>。⑤ 若<sup>ク</sup>レ

是<sup>カ</sup>クノ名<sup>ニ</sup>声<sup>ニ</sup>日<sup>ニ</sup>聞<sup>コ</sup>、天<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>

願<sup>ヒ</sup>、令<sup>ジ</sup>行<sup>ハ</sup>禁<sup>ス</sup>止<sup>ミ</sup>、王<sup>ノ</sup>者<sup>ノ</sup>之<sup>ヲ</sup>

事<sup>ヲ</sup>畢<sup>ス</sup>矣<sup>。</sup>

(「荀子」による)

(注) \*聴政 || 政務を執り行うこと。

\*不肖 || 愚かな者。

\*日間 || 日に日に高くなること。

\*大分 || 根本。

\*英傑 || 優れた者。

\*事 || 事業。

(1) 傍線部①「待之以礼」が「之を待つに礼を以てし」という書き下し文になるように返り点をつけるとき、次のA～Dに適するものを、それぞれあとの①～⑧の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい(同じ番号を何度選んでもよい)。

待<sup>A</sup>之<sup>B</sup>以<sup>C</sup>礼<sup>D</sup>

・ A  23

・ B  24

・ C  25

・ D  26

- ① 一
- ② 二
- ③ 三
- ④ 四
- ⑤ 五
- ⑥ 上
- ⑦ 下
- ⑧ 返り点なし

(2) 傍線部②「両者」の組み合わせとして正しいものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

27

- ① 至・待
- ② 礼・刑
- ③ 賢・不肖
- ④ 不雑・不乱

(3) 傍線部③「分別」とはどのような意味か。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

28

- ① 考えて理解すること。
- ② 事前に予測すること。
- ③ 違いを見極めること。
- ④ 損得をよく検討すること。

(5) 傍線部⑤「天下願、令行禁止」とありますが、これを現代語訳したものと最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

30

- ① 天下の人々は王に忠誠を誓い、命令も禁止もされなくなつて
- ② 天下の人々は国に従い、命令が行きわたり、禁令も守られて
- ③ 天下の人々は反乱を願ひ、命令が厳しくなり、禁令の数が増え
- ④ 天下の人々は国と共にあり、禁止する命令を出すことが減り

(6) この文章が伝えようとしていることとして最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

31

- ① 荀子は国の治め方について説明しており、正しいことと誤っていることへの対応をきちんと区別することの大切さを教えている。
- ② 荀子は法律を定める際の心構えを語っており、罪を犯した者にはできるだけ厳しく対応するべきだと主張している。
- ③ 荀子は人の隠れた本性を見抜く方法を説いており、正直な人と悪意のある人の違いを見極めて登用することが重要だとしている。
- ④ 荀子は国が戦争に勝つ方法を教えており、英雄には褒美を十分に与え、働きが悪い者は処罰するべきだと言っている。

(4) 傍線部④「非」とありますが、漢文中と同じ意味で「非」が用いられている熟語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

29

- ① 非常
- ② 非行
- ③ 非力
- ④ 非凡

四

次の(1)～(4)の熟語と最も関係の深い言葉を、あとの①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

(1) 油断 32

(2) 辛抱 33

(3) 用心 34

(4) 無益 35

- ① ちりも積もれば山となる
- ② 石の上にも三年
- ③ うどの大木
- ④ 石橋をたたいてわたる
- ⑤ 能ある鷹は爪をかくす
- ⑥ 月とすっぽん
- ⑦ 猿も木から落ちる
- ⑧ 立て板に水

五

次の(1)～(4)の文の空欄にあてはまる最も適当な言葉を、あとの①～⑦の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

(1) たいへんすばらしい絵を 36、ありがとうございます。

(2) お客様はすでに部屋へ 37 います。

(3) 父が先生とお話をさせていただきたくないと 38 おります。

(4) 先生は今、昼食を 39 おります。

- ① 参上されて
- ② 申して
- ③ 差し上げて
- ④ いらっしゃって
- ⑤ 召し上がって
- ⑥ 頂いて
- ⑦ おっしゃって

六

次の(1)～(4)の組の文の中で、傍線部の単語の品詞が異なるものを、①～④の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

- (1)
- ① 朝になり、東の空に太陽が昇った。
  - ② 将来は大学に行き弁護士になりたい。
  - ③ 私を見るなり、母は笑顔になった。
  - ④ ここでは靴を脱がなければなりません。

40

- (2)
- ① 彼の家は立派で、庭もとても広い。
  - ② この人はわたしのおじで、先生です。
  - ③ これは父の写真で、春に撮ったものだ。
  - ④ もうすぐ夏で、暑い日が続くだろう。

41

- (3)
- ① 大きい音をたてて車が走っていった。
  - ② 小さな子がひとりで歩いていた。
  - ③ くやしい思いを乗り越えていく。
  - ④ 明るい部屋の中で本を読む。

42

- (4)
- ① おいしそうなものがいっぱいある。
  - ② 休日なのでゆったりとしていた。
  - ③ もっとたくさん音楽を聞きたい。
  - ④ さあ、今から英語の勉強をしよう。

43

